

第61号

酪農

とちぎ



1 ページ 表紙

2 ~ 4 ページ

第 9 回通常総会に向けて
平成21年度事業実績について
平成22年度事業計画について

5 ページ 東西南北（支所だより）

6 ページ 部課だより 販売部

7 ページ 業務部

8 ページ 理事会だより・お知らせ他



第九回通常総会にむけて

総代会から全員総会へ

来る平成二十二年六月三十日に高根沢町民ホールにて第九回通常総会が開催されます。すでに組合では総代制を廃止し、今回の総会より組合員（六四三名）全員による総会となります。

後日、正式に総会招集通知を発信いたしますが、組合員の皆様におかれましては、総会で説明する資料（業務報告書）をご持参の上、ご出席されますよう心よりお待ちしております。なお、ご都合により総会を欠席される方には「書面議決書」にて各議案の賛否をご記入の上、書面を組合に提出いただく事になりますのでご承知の上、ご協力賜りますよう重ねてお願いいたします。

さて、総会に先立ちまして業務報告書より事業実績と事業計画を下記内容にて抜粋いたしましたの

で、ご確認いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

一、平成二十一年度 事業実績について

事業概況

平成二十一年度生乳計画生産は、飼料高騰等の影響で経営困難を極めた酪農危機から正常軌道への回復を後押しするように、中酪は「生産回復・拡大を図るような数量設定を行う」とする基本方針を示しました。

組合は関東の数量配分に基づき、組合員個々の生産力を加味した平成二十一年度基準数量を設定し、基準数量を上限に乳量申告を願ひし、生産力のある組合員には最大限追加割当を行いました。また、期中において割当見直しを行い生産実績と割当の乖離是正を図りま

した。

その間酪農は、乳価値上げ等により生産活動での確かな手応えを感じ取りながらも、飲用消費の減退により乳製品在庫の積み増しが一段と進む中、需給ギャップの趨勢に注視し続ける展開となりました。組合は割当見直し以降、外部導入について極力控えてもらうよう理解を求めました。さらに年末年始の販売不可能乳の回避を目的とした関東全体で取り組む全乳哺育について出荷組合員へ協力を求め出荷抑制を図りました。それら対応にあたっては早めの情報提供と関東の他会員と連携に努めながら、次年度計画生産を見越したなかで対処してまいりました。

現在の酪農は、経営環境の好転により個々の経営努力と相まって回復・改善の途上にありますが、

デフレ経済が進行する中で消費者の低価格志向に合わせ取引価格の値下げを求める量販店との交渉は厳しさを増しており、適正価格での取引を継続しながら牛乳乳製品の消費低迷に歯止めをかけ、全体として消費拡大を推進していきたい。酪農の存在意義や国産牛乳の価値を多様な形で訴求し浸透させていくことが命題となりました。

組合の生乳生産は、夏場以降の生産量に例年のような上昇回復の無い鈍化した生産状況で推移しましたが、生産量二一五、五四九ト、計画比一〇一・〇％（需要期一〇二・七％、不需要期九九・三％）となり計画を上回る実績を収めることができました。

なお、各部門とも事業計画の達成と経費の圧縮に努め、当期剰余金で一六四、三一〇千円を計上することができました。

主な事業活動と成果については、以下のとおりです。

① 生乳販売については、加工向け販売処理が増えましたが販売乳量の増加によって販売高で計



画比一〇〇・三%、受入高で計画比一〇〇・八%となりました。需要期等奨励金については、夏の天候不順が乳牛には好条件となったこともあり総額一八五、六四七千円（前年比一〇三・九%）と前年を大きく上回る支払いとなりました。総利益は、販売高と受入高の計画差により計画比九四・七%となりました。

② 市乳販売については、乳価値上げに伴う価格改定以降、成分調整牛乳が値上げ前の無調整牛乳と同価格帯で販売される中で大幅に売上を伸ばすなど低価格志向が進む中、「那須だいき牛乳」を使った商品協力でのPR等を図りましたが、主力商品の大幅な販売悪化により、総販売本数で七、〇八〇千本、計画比七〇・八%の実績に大きく落ちこみました。

③ 購買事業については、指導購買体制の強化を図り、生産性向上とコスト削減を図るため定期巡回及び利用拡充推進を行い、濃厚飼料で八七、六三八t、計

画比九九・六%、粗飼料では五二、四六一t、計画比一〇二・四%の実績となりました。飼料等利用奨励金については、総額で二五五、二八四千円、計画比九九・六%を支払うことができました。また、飼料作物や牧草等の購入に対し八、〇四一千元の種子購入助成を行うと共に、飼料稲の収穫作業を受委託し、自給飼料増産支援を図りました。

④ 指導事業については、生産基盤を強化し酪農経営の安定を図るため、経営改善・飼養管理改善等の巡回指導や各種補助事業・リース事業を推進すると共に、資金借入等の経営相談と組織活動支援に努めてまいりました。

⑤ 改良事業については、新規に民間会社と売買契約を締結し利用者への拡大に努め、凍結精液の販売本数で計画比一〇二・六%となり、受精卵では和牛市場の価格低迷により、計画比五三・三%の実績にとどまりました。また登録では自動登録の積極的な推進等により、計画比一二〇・

八%の取り扱い件数となりました。牛群検定事業では助成措置を講じながら普及推進に努め、新たに二十四戸、合計八十四戸がAT検定を開始しました。

⑥ 診療事業については、繁殖検査は対象者、検査頻度の増加により計画を上回る稼働となり、乳房炎防除については地域酪農組合や青年部等の組織を中心にバルクスクリーニング検査の活用を地域での普及に努め、ラクトコーダー（搾乳性能測定器）を使った搾乳立会指導に取組み始めました。

⑦ 牧場事業については、BLV検査の影響で預託頭数がやや計画を下回りましたが、カウコンフォートの改善や圃場作業の効率化に努め優良後継牛の作出と収支改善に努めました。また、組合内部に作業受託組織「酪農とちぎアグリサポート」を立ち上げ県単事業に参加し、牧場管理に関わる業務形態の見直しを進め、組合員の作業受託の負託に応えるべく草地管理作業等へ

の人的支援拡充を図りました。

⑧ 経営管理については、組合運営の可視化を図るため乳代手数料方式への移行準備を進めながら各部門の管理統制を図り、組合運営に関わる各種情報の提供と拡充に努めながら事業管理費を圧縮することができました。

二、平成二十二年度 事業計画について

基本方針

平成二十二年度の酪農情勢は、生乳需給についていえば需要量が供給量の九五・五%と見込まれ、昨年来積み増されてきた乳製品の過剰在庫解消を先送りに出来ない中で、牛乳・乳製品の消費拡大と需要に見合った生産抑制による減産対応が重要な課題であります。

中央酪農会議は、今後の生乳の需給変動への対処や新たな需要創出という努力を視野に入れ、大幅な減産による多様なリスクを回避すべく、平成二十二年度の生乳計画生産の枠組みを設定しました。それによると、実需（販売基準数



量)に調整(特別調整乳数量)を上乗せした供給目標をベースに、新たに創出する需要(選択的拡大生産数量)を三段重ねた生産枠を計画生産目標数量(前年見込比九八・七%、北海道一〇〇・〇%、都府県九七・三%)とし、減産幅の圧縮を図った内容となりました。

関東生乳販連は、中酪からの目標数量が都府県平均を〇・八%下回る極めて厳しい状況において、総合乳価の値下げ要因にはなるものの生産基盤の弱体化を招かぬよう生産枠の確保を図るため、選択的拡大生産数量九、三〇〇tとチーズ向け七五五tを関東独自に取り組みと共に、販売基準数量のうち五、〇〇〇tを増産枠として希望会員に配分するなど、飼料高騰等による酪農危機を乗り越え体力回復の途上にある状況を考慮した対策を図る事になりました。

関東の方針をふまえ、組合は生産実態と乖離した過度の減産対応とならぬよう最低でも前年実績比九八・〇%を上限数量として申告をお願いし、追加希望については

経営状況や超過リスクを勘案した中で追加配分の考え方を示し、最大限の乳量割当配分を行ったところでです。

減産計画生産下にはありますが、支払乳価の最大化と支援サービスの最適化を組合運営の基軸に置き、組合員への最大奉仕を目的に事業展開してまいります。

生乳販売事業

需給状況等の情報提供を行いながら個々の対応を促しつつ、生産見通しの実態把握に努め、計画生産達成を図ってまいります。

市乳販売事業

組合牛乳と農産物特産品とをコラボした商品開発に積極的に協力し宣伝効果を高めながら、販売目標数量の達成と乳製品ギフトの販売促進、消費拡大活動の展開を図ります。

購買事業

生産性の向上及び購入飼料費の削減を図るため、指導購買を推進すると共に、配合飼料等の利用奨励及び種子の購入助成を継続し、自給飼料生産の拡大を図ってまい

ります。

酪農指導事業

事業賦課金を新たに設定し既存事業の運営について支援助成の在り方について検討を促しながら、酪農経営の安定向上に向けた生産活動の技術指導、各種事業や資金・リース等の活用支援、生乳生産管理チェックシート記帳・記録の完全定着化を推進してまいります。

改良事業

優良凍結精液・受精卵の販売促進と自動登録の普及定着による登録の効率化に努めてまいります。

診療事業

繁殖検診・乳房炎防除の事業成果を地域に浸透させながら、組合員のニーズに応えた形での受精卵移植の推進に努めてまいります。

牧場事業

ふれあい牧場と各放牧場の一体管理のもとでアグリサポートを活用し採算性を確保した運営体制の確立に努め、飼養管理等の改善を図りながら預託者の負託に応えた優良後継牛の輩出に努めてまいります。

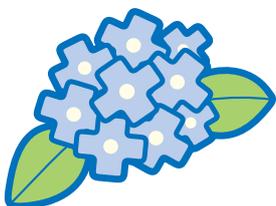
アグリサポート事業

牧場事業の管理全般を受託した形で事業推進するとともに、組合員の自給飼料生産を支援すべく農作業受託を着実に拡充しつつ、事業の進捗を検証しながら県単事業完了後の組織整備について検討してまいります。

経営管理

乳代精算システム変更を着実に実施し、組合員の費用負担の可視化を図り、更なる機構改革のもとで組合運営の合理化・効率化を推進してまいります。

以上、事業計画に沿って役職員が一体となり総力体制で事業遂行してまいりますので、組合員各位の一層のご理解ご協力をお願い申し上げます。



東西南北

那須高原支所

平成二十二年支所事業について

四月二十八日、支所活動推進協議会（中島隆会長）の運営に関して四地域酪農組合長会議を開催し、今年度の支所事業について協議しました。

事業内容としては前年を基本に計画し、まず六月十日に花の苗（インパチェンス・ベコニア・サルビア）配付を行い、環境美化に努めて参ります。また、牛舎環境調査（夏・冬）を通して、チェックシート記帳・記録の普及定着化を目指します。記帳率については年々向上しておりますので、引き続き記帳を宜しくお願い致します。更に、親睦交流としてポウリング大会等を実施すると共に、講演会を計画しますので、多数のご参加をお願い致します。

これら支所事業の詳細については、六月の支所活動推進協議会運営委員会で決定します。

なお、当協議会では口蹄疫拡大に伴う防疫対応として、五月に管内全農家に消毒用スプレー容器を配付しましたので、常時携帯して頂き、他農場をはじめ外出先でも消毒をされ、感染防止に努めて頂きます様、宜しくお願い申し上げます。

支所青年部・女性会の

各支部長が決定!

役員改選に伴い、次の通り新支部長が決定致しました。

支部名	青年部 支部長 (組合員名)	女性会 支部長 (組合員名)
那須	小松 俊介 (良吉)	竹内 禮子 (博夫)
黒磯	人見 高志 (一男)	高野八重子 (政義)
塩原・西那須野	藤田 哲男 (蔵)	八木沢孝子 (美佐雄)
大田原	松本 和徳 (本人)	福田チヨ (弘美)

なお、青年部・女性会の支所代表には、各支部長の互選により、人見高志氏と竹内禮子氏が選出されました。

宇都宮支所

荒井牧場（那須烏山市鴻野山） 搾乳牛の放牧に取組む

荒井牧場の健文さん、京子さんご夫妻は、昨年より日本草地畜産種子協会飼料作物研究所（那須塩原市赤田）の支援を受けながら、搾乳牛の放牧に取り組んでいます。



放牧は牛舎周辺にある五杉の放牧地を三牧区に分割し、草の生育を見ながらの輪換放牧です。生達は、広い牧草地の中で

びりと草を食み、横臥していて、大変気持ちよさそうにしています。また、搾乳については繋ぎ牛舎を再利用し行い、搾乳中に配合飼料やサイレージ、ビート及びヘイキューブ等を給与し、不足するエネルギーを補っております。

荒井さんは、「牛は本来草を食べる動物。牛舎に繋がれたままの牛より、自由に歩ける牛は健康になるし、思い通り乳を出してくれる」と話されました。また、放牧酪農は、気候・土壌・営農環境等に左右されるため、内地では珍しい経営形態ですが、「搾乳牛の放牧は、家族が労力的に楽になる事と、牛と人間が健康になれば」との思いで取り組みを始めました。」と話しました。

これからも創意工夫をしながら課題を解決し、夫婦仲良く楽しみながら搾乳牛放牧を続けていって頂きたいと願っています。

県南支所

「キラリ、元気です。」

県南支所から高齢にも拘わらず効率的な酪農経営を営んでいる芳賀町の遠藤武さんを紹介いたします。

遠藤さんは現在八十三歳（昭和二年生まれ）になりますが、昭和三十三年から酪農を始め、平成二年に病気のため一時酪農を中止したものの、一年後に再開して現在に至っています。戦後の厳しい時代を生き抜き、一人で今日までやってこられた理由を伺ったところ、「畑作農業の労力から考えると酪農が自分の生活に適していて、作

業の大半を機械化すること一人で酪農経営が継続出来た。また、天候に左右されなく毎月収入が得られる酪農は魅力的である。」との答えが返って来ました。



さらに、「牛は草を食べ、草を食べた牛は糞をする。その糞を畑に還元する事によって土が良くなり、土が良くなる事で良質な草を作ることが出来る」という循環型農業が成り立っているのが酪農である。自家野菜などは無肥料で良いものが採れ、有難い事である。」と笑顔がこぼれました。

経営の概要ですが、息子さんが公務員のため、自分一人で圃場面積二・五ha（デントコーン・麦）の管理と飼養頭数二五頭（うち搾乳牛二〇頭・和牛五頭）の管理を行っており、牛群検定成績を活用して、個体能力の把握を行い酪農経営の改善を行うと共に、和牛受精卵移植を行う経営を実践しております。

今後の酪農経営について、現状の頭数を維持し、工夫しながら生涯現役で酪農を続けていきたいと穏やかに話す遠藤さんに大いに元気を頂きました。最後に遠藤さんの益々のご活躍とご健勝をご祈念致します。

部課だより

生乳販売課

四年度の生乳生産量は前年比九四・五％（一七、七二〇トン）となり、関東においては前年比九五・五％となりました。

各支所別生乳生産量・乳質成績はグラフのとおりです。

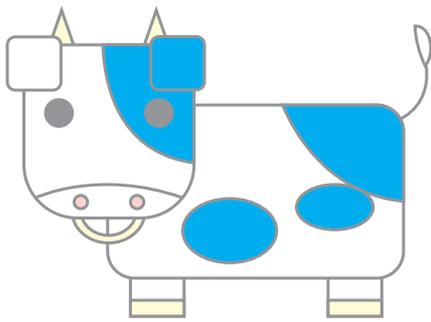
出荷組合員数は五五八戸（前年五七八戸）、学校・公共団体五戸（前年四戸・今年度、酪農試験場が本組合に出荷）でした。

関東の生乳生産量は前年を下回っているものの、飲用牛乳向け処理量が前年比（四年度）九二・四％と依然として減少傾向にあります。加工率（四年度）は十三・九四％と前年を一・九七％上回る結果でしたが、四月に関東生販で取組むことにした選択的拡大生産量向けの処理を一部行ったことが影響したと思われます。

四年度の発酵乳向けは前年比九

六・三％・チーズ向けは一一・二％・生クリーム向けは一〇五・二％となりました。

六月一日は牛乳の日、六月は牛乳月間です。組合員の皆様はもとより、関係団体において日頃から牛乳・乳製品の消費拡大PRに取り組んでおりますが、六月は関係団体・乳業者一丸となって更に消費拡大運動を展開して参りますのでご協力をお願いいたします。



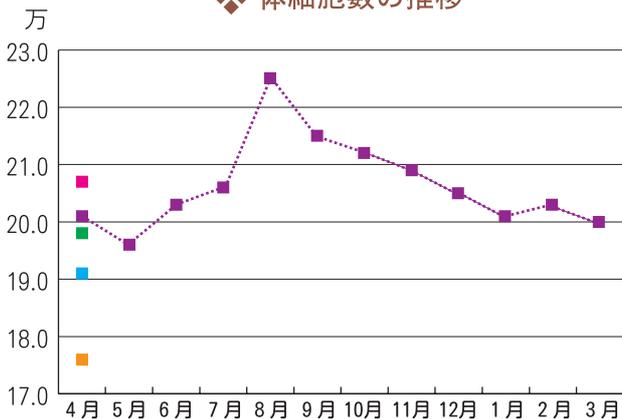
◆ 脂肪率の推移



◆ 乳量推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



大切な乳牛を口蹄疫から守るために

推薦農者農ろ思努策高伝こ染で止るなさあが今るのいーもける
 めす場必場んいめをく染と病な対発りせる非回と取、消文、口四
 いるで要にのまて行持病なにく策生まなた常のこり発石書酪蹄月
 たと専が頻こすいいちにの対、は予すいめに口ろ組生灰等農疫に
 しい用あ繁と。た、、対でしさ、防。こ、強蹄でみ予ーにとの宮
 まうのるに、消だ発徹す、てま口・以とまい疫すを防のよち発崎
 すこ長方出獣毒き生底る日共ざ蹄ま下がず伝は。進に配るぎ生県
 。と靴に入医はた予し意頃通ま疫んに重は染伝特め向布啓とをに
 もをはり師もい防た識かすなだ延上要発病播にてけを蒙しうお
 お用、す等ちとに對をらる伝け防げと生で力、いて行やて け

口蹄疫とは…
 牛や豚などにかかる伝染病で、口や蹄に水ぶくれができるのが特徴です。また、発熱や多量のよだれを流し、食欲がなくなったりします。

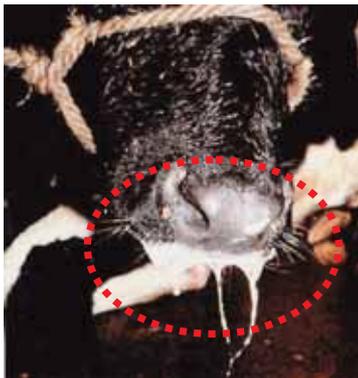
口蹄疫の発生予防・まん延防止のために以下のポイントに気をつけましょう。

- 農場を訪問する車や持ち込む器具等は必ず消毒しましょう。
- 関係者以外の農場への立ち入りは極力控えましょう。
- 飼養する家畜の健康観察は毎日丁寧に行いましょう。
- おかしいと思ったら、すぐにかかりつけの獣医師、または最寄りの家畜保健衛生所に連絡しましょう。

主な症状 (初期症状は発熱、食欲減退、口・鼻・蹄周辺の水疱形成)

今回の宮崎県の疑似患者

多量のよだれをたらす。



唇・歯ぐき・舌に水疱(みずぶくれ)ができ、すぐ破れて潰瘍になる。痛くて物が食べられなくなる。



更に詳しい口蹄疫の情報は、以下の動物衛生研究所のホームページでもご確認いただけます。
<http://niah.naro.affrc.go.jp/disease/FMD/index.html>

飼養牛の異常が見られたらすぐに獣医師、家畜保健衛生所へ連絡してください。

県 央	家畜保健衛生所	TEL 028-689-1200	FAX 028-689-1279
県 南	家畜保健衛生所	TEL 0282-27-3611	FAX 0282-27-4144
県 北	家畜保健衛生所	TEL 0287-36-0314	FAX 0287-37-4825





四月度理事会

報告事項

- (一) 組合員加入について
- (二) 資金貸付について

協議事項

- (一) 三月度及び平成二十一年度事業実績について
- (二) 平成二十一年度乳質共励会表彰について
- (三) 平成二十二年度生乳計画生産追加割当配分について
- (四) 第九回通常総会付議事項について
- (五) 牛魂碑の移設について
- (六) 組合員出資口数の減について

五月度理事会

- (一) 資金貸付について
- (二) 組合プール乳価について
- (三) 役員推薦会議報告について

協議事項

- (一) 平成二十一年度事業実績に

ついて

- (二) 剰余金処分案について
- (三) 四月度事業実績について
- (四) ㈪日本ホルスタイン登録協会の役員選任について
- (五) 栃木明治牛乳㈱の監査役候補者選任について
- (六) 第九回酪農まつり・ホルスタイン共進会の中止について

お知らせ

第九回酪農まつり・ホルスタイン共進会を中止

今年度九月に開催を予定しておりました「第九回酪農まつり・ホルスタイン共進会」について五月度理事会にて協議した結果、今年度の開催を中止することとなりました。ご理解の程をお願い申し上げます。

牛魂碑を移設

五月二十八日、組合所有施設（旧西那須野事業所・旧五軒町事

業所・旧栃木県南支所）に点在していた全ての牛魂碑がふれあい牧場入口左側の高台に移設され、移設除幕式が行われました。

除幕式は理事・監事・職員が参列し、我々の生活のために全てを捧げてくれる牛達に感謝をし、その御霊が天に届くことを願いました。今後は、この牛魂碑を移設した当地において供養のための神事を毎年行って参ります。



5月ホクレン初妊牛市場成績

[単位：頭、千円（税込）]

市場名	開催日	成立頭数	平均価格	~400	401~450	451~500	501~550	551以上
南北海道	5月8日	56	485	2	8	23	20	3
十勝	5月11日	386	532	2	25	68	179	112
北見	5月12日	289	505	8	27	89	112	53
根室	5月13日	362	513	9	35	107	129	82
釧路	5月14日	161	491	2	29	53	67	10
豊富	5月20日	230	499	4	24	89	87	26
十勝	5月27日	246	516	9	25	60	95	57
合計		1,730	512	36	173	489	689	343
前月		1,875	533	25	100	385	600	765
前年同月		1,814	502	68	233	538	626	349

※上記金額にはE T妊牛価格を含みます。

家畜市場成績

平成22年 5月

[単位：円（税込）]

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
西那須野 30日	ホルス雄	104	63	67,200	2,210	48,967
	F 1 雄	96	55	197,400	87,150	145,655
	F 1 雌	70	52	137,550	50,400	99,720
館林 27日	ホルス雄	3	77	40,950	23,100	33,600
	F 1 雄	17	88	223,650	131,250	188,505
	F 1 雌	14	87	183,750	57,750	140,775

